



古橋 ^{かな}佳奈さん

●赤見中学校3年

憧れの教師を目指して

わたしの将来の夢は、小学校の教師になることです。

目指そうと思ったのは、中学2年生のマイ・チャレンジで小学校に行かせていただき、普段中学校に通うときと違う立場で学校で過ごし、憧れを抱いたからです。教師になるためには、試験に合格するなど、たくさんの勉強が必要だと聞いています。でも、陸上競技の長距離走で鍛えてきた精神力でそれらを乗り越え、必ず夢を叶えたいです。



佐野ブランドキャラクター
さのまる

市長からの

メッセージ

暖かな日差しの中、桜の花も見ごろを迎えています。皆さんがお過ごしですか。



先月の市議会において、平成28年度予算を承認いただきました。一般会計予算465億5千万円のほか、各特別会計、公営企業会計などであり、合併以降3番目の予算規模となりました。

今年度予算の特色としては、人口減少の克服に挑戦するため、本格的に始動する「佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の積極的な推進と、将来にわたり安定的で持続可能な財政運営に向けた市有施設の整備と長寿命化の推進を大きなテーマとして予算編成を行いました。

特に人口減少克服への対応として、若者の安定した生活基盤の確保が重要と考え、本市の高速交通の利便性を活かし、企業誘致の促進や新しい産業の創出など「しごとづくり」に関する分野を柱に、定住促進に関する事業も取り入れた内容となっております。今後も「観光立市」「スポーツ立市」を推進しながら、「さのまる」と一緒に本市の魅力を国内外にPRし「新しい人の流れ」を作っていきたいと考えております。

また、安全・安心の分野では、市民の生命、財産を守る防災拠点として新しい消防本部庁舎が完成し、先月24日に落成式を行いました。内覧会では多くの子ども連れの方々が見に来てくれました。この新たな消防本部を核とし、地域防災士の育成や消防団員の確保など地域防災の充実を図り、市民と密着した消防行政を推進してまいります。

4月は入学式、入社式など夢や希望に向かって新たなスタートを切る季節でもあります。皆さんには、常に前を向いて進んでいただきたいです。また、花冷えの季節は体調を崩しやすいものです。市民の皆さん、くれぐれもご自愛ください。

岡部 正英



今回の表紙 「万葉自然公園かたくりの里」(町谷町) 3月18日(金)

「万葉自然公園かたくりの里」にはカタクリの花が日本有数の規模で自生しています。今年も3月中旬以降、アズマイチゲの白い花とともに、カタクリが薄紫の美しい花を咲かせ、市内のみならず各地から訪れた多くの人の目を楽しませました。

とみこ 田沼 富美子さん (植野町)



キラリ★ 話題の「ひと」

○プロフィール

宗家西川流師範 佐野市楽習講師
栃木県・佐野市文化協会会員(邦舞部門)
日本舞踊協会会員
日本舞踊振興財団会員
佐野市国際交流協会会員
佐野市日中友好協会会員

出会いを大切に

佐野市の楽習講師として活躍する田沼さんは、市民の皆さんに日本舞踊を通じ、日本文化に触れる機会を作ってくださいたいです。

特に毎年開催される「国際交流フェスティバル」「国際交流ニユーイヤーパーティー」「日中友好協会春節の集い」などで外国人の方に着付けをお手伝いして、日本舞踊を体験してもらい、たいへん喜ばれています。

平成16年には、市内の中学1年生に「特別授業」として日本舞踊の授業を行いました。そして昨年は中学2年生に家庭科の授業の一環として、浴衣の着付けの授業を行いました。生徒さんの嬉しそうな笑顔とお礼の手紙には励まされたとのこと。他にも高齢者施設に慰問をして日本舞踊を楽しんでもらっているとのこと。

先月、3月5日・6日に開催された「全国学びとまちづくりフォーラムin佐野」での楽習講師フェアでは、お弟子さんたちの日本舞踊の披露と、お弟子さんと外国人の方たちによる「よこくら」が披露され、たいへん好評でした。

田沼さんは「支えてくださる方々に感謝の気持ちを忘れずに、これからもたくさん皆さんの皆さんに日本の伝統文化に触れるお手伝いをしていきたいです」と笑顔でお話してくださいました。

日本文化の継承のためご活躍されている田沼さん。今後のご活躍をご祈念させていただきます。
(市民記者 中里聖子)



「全国学びとまちづくりフォーラムin佐野」での田沼さん(前段中央)

佐野市 ばんざい

突然の出来事に動揺することを バツタクスルという

おおぜいの人が寄り集まっている席で、突然、「ひと言ご挨拶を…」などといわれると、一瞬その対応にうろたえることがあります。このように何をどのように話そうかと当惑することを、ドギマゴスルといいます。

「人前でしゃべったコター(ことは)ネーダンベー、だから、そんなときはドギマゴシチャツて、何しゃべってんだかわんなかったよ」

ドギマゴスルは、共通語の「どぎまぎする」が変化したものです。

あわてて動き回っているものの、どうしていいかわからずおどおどすることを、トトロズクといいます。

「夕立が来そうだから、早く干し物をオツコメ(取り込め)っていったのに、何トトロズクイテんだ。子供っチャー、シャーネーナー(しょうがないね)」

ぐずぐずしている動作をとるとろというが、これがもとなって生まれたのがトトロズクです。予期せぬ出来事があったとき、あわてふためいて気が動転し、事がうまく進まないことを、バツタクスルといいます。

「あしたは家族で花見にイグ(行く)ベーってことンなつて、楽しみにしてたんだけど、あいにく雨ンナツチャツテ、バツタクシたよ。」

かつては佐野市全域がトトロズク、バツタクスルの使用地でした。その中で、特に旧安蘇郡(田沼・葛生)の明治・大正生まれの人たちは、昭和の中頃までこれらの方言を日常的に使っていました。今では死後同然となっています。

(市民記者 森下喜一)

